

夏休みビジネスについて

近年、中国で「夏休みビジネス」という新型ビジネスが誕生しました。中国では進学試験、大学入学試験が終わった6月に、全ての学生にとって重要な年に一度の夏休みが始まります。夏休みは2〜3ヵ月もあり、この期間中、学生がいる世帯をターゲットにして、各企業が夏休みビジネスを展開します。

中国には、「いくら貧乏しても子供にお金を惜しませず」という言い方があります。生活水準の上昇に伴い、子供に対する支出も大きくなっており、そのことが夏休みビジネスの成長要因のひとつとなっています。

夏休みビジネスは土日、祝日商戦と比べ、学生・親・教師が主な消費者で、その内訳は旅行・レジャー・ショッピング・娯楽・懇親会・塾・図書など様々なものがあり、経済効果と社会反響が年々拡大しています。

学習塾産業が夏休みビジネスの中心

中国ではほとんどの家庭は両親が共働きで、夏休みに子供が独りになることが多くなります。また、自分の子供が立派な人物になるように、知能指数 (IQ)、心理知能指数 (EQ) を高めるために夏休みを利用して子供を塾などへ通わせることが流行っています。

学習塾産業は夏休みビジネスの上位を占めており、小中学校課程対象の塾、水泳教室、テコンドー教室、ヒップホップダンス、芸術、英語、書道など、様々な塾の宣伝チラシが至る所に貼られています。

塾費用は内容によっても異なりますが、一般的なものでは1コース500元が基本です。芸術・楽器・英語などの場合は、申込料や教材費などを含めると2〜3千円を超えることもあり、一度の夏休みで1世帯当りの塾費用は数千円にもなります。

また、長い夏休みを利用して自動車運転免許を取る高校卒業生や大学生は、この時期に閑散期となる自動車運転学校にとっては、ありがたいお客様です。現在、自動車運転学校の受講費用の相場は3,500元前後です。



学習塾の入口の様子

デジタル商品の売れ筋

毎年、夏休みシーズンは、デジタル商品販売の繁忙期です。各店舗は、学生向けに売れ筋のパソコンから周辺機器まで、様々なキャンペーンを実施するなど、学生消費者をターゲットに懸命なセールスを行います。その結果、顧客の7割以上を学生が占めています。

現在の学生たちは、小さい頃からデジタル商品に触れ合う機会が多く、親も購買力を備えています。小中学生では、勉強に必要なフリーディスクやMP3/MP4プレーヤー、電子辞書などが挙げられます。

新入大学生は、ノートパソコン、デジタルカメラ、スマートフォンを入学時の3種の神器として必ず購入します。商品によって値段差がありますが、3品を揃えると少なくとも7千円はかかり、最も人気があるiphone4Sやipadに至っては、1万円を超えます。

娯楽、旅行、同窓会

中国では進学競争が激しいため、合格を果たした6月に卒業した学生に対し、親からお祝いとしてカラオケ・映画・食事・旅行などがプレゼントされたり、3年間共に勉強したことを記念して同窓会なども行われます。

武漢の人気映画館の統計によると、毎年6〜9月の3ヶ月間の売上高は年間総売上の3分の1を占め、また、カラオケボックスもこの期間は人気が高く、昼間、部屋の稼働率が上がります。顧客の中心は、やはり試験を終えた学生です。

旅行関連では、家族旅行、卒業旅行、サマーキャンプの人气が年々高まっています。武漢市内の各旅行社では、武漢周辺の川下りや登山、北京・上海などの大都市周遊コース、沿岸周遊コースが好評で、その他の人気路線の旅行コースも続々と企画されています。

また、海外旅行では、近年、アメリカ、イギリス、日本が主な旅行先となっています。最近では、アメリカのビザ緩和政策とロンドンオリンピックの影響で海外旅行の需要が増え、旅行代金は閑散期より2〜4割増となっているにもかかわらず、既に募集人数枠は残り僅かとなっています。



旅行パックの新聞広告

図書と学習用品の販売

夏休みビジネスを説明する上で、図書市場も欠かせません。

冷房がきいた図書館・書店等は、子供たちが暑い夏の日中を過ごすための行き先のひとつです。床に座って本を読む子供の姿も至る所で見かけますが、この時期に本の販売数も増加します。中でも、授業の教科書、名著類、教養書類、科学技術普及関連などの図書が売れ筋となっています。

このほか、ランドセルや学習用品の入学、進学商戦も夏休みにピークを迎えます。

以上のように、夏休みビジネスは短期間の限定的なビジネスですが、消費金額が大きく、金融専門家からも注目される今後のビジネスのひとつです。